

- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）
- ・ダイジェスト版研修

学びを支援現場で実践
することが難しい…

①佐賀県強度行動障害フォローアップ研修

→講師やファシリテーターのサポートのもと、事例検討会を実施し、受講者が抱える課題や事例対象者への関わり方等を整理する。その学び・気づきを踏まえて、実践する。

②アドバイザー派遣

→講師やファシリテーターを現場（受講者の事業所）に派遣し、OJT実施。

研修スキームについて

佐賀県 + 佐賀県強度行動障害支援部会

委託

講師・ファシリテーター

教育班

ファシリテーター①

- 受講者①
- 受講者②
- 受講者③

福祉班

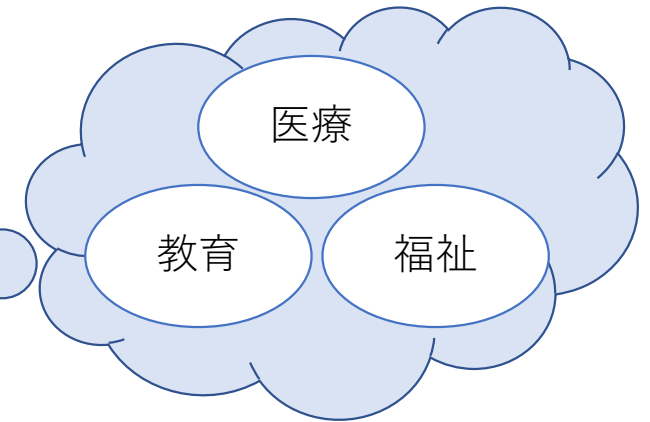
ファシリテーター②

- 受講者④
- 受講者⑤
- 受講者⑥

医療班

ファシリテーター③

- 受講者⑦
- 受講者⑧
- 受講者⑨

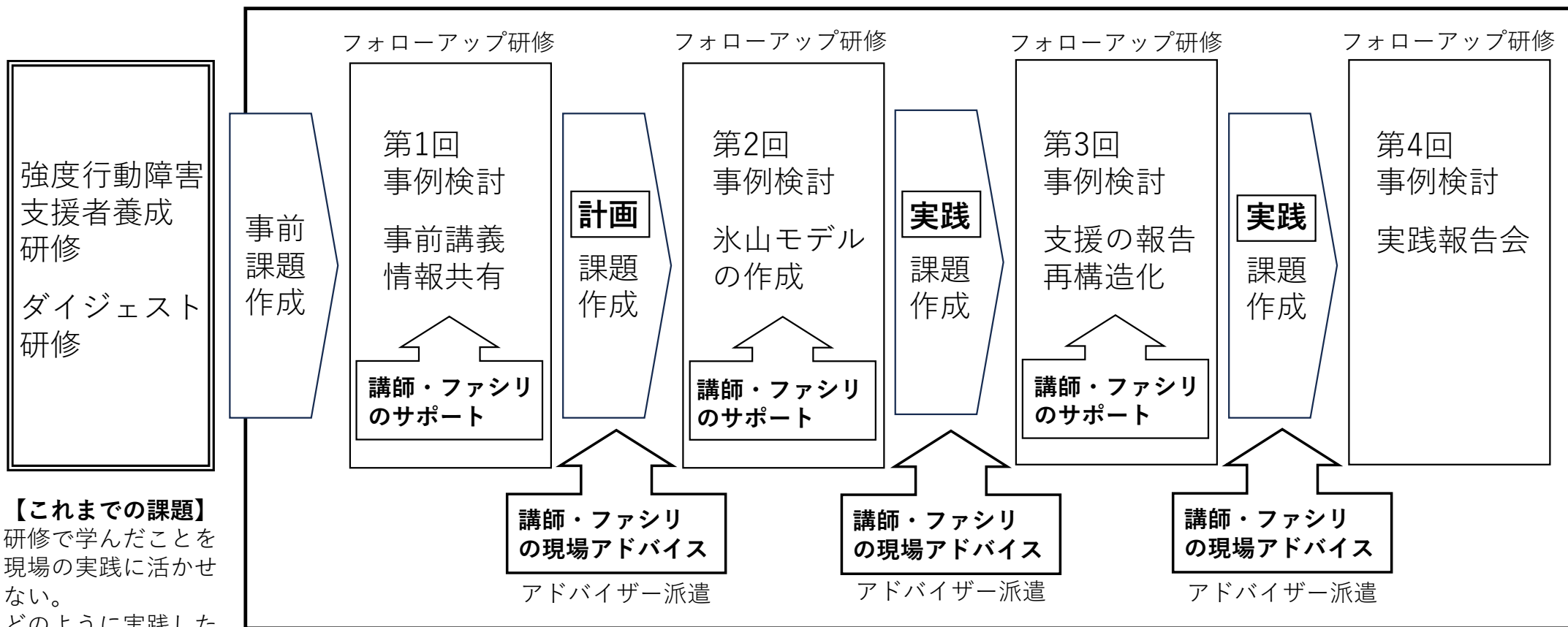


分野を越えて、県内の強度行動障害児者支援を考えるプラットフォームの確立を目指す！

【班編成について】

- ・ 班毎に、1～2名のファシリテーターを配置し、3～4名の受講者をサポート。
- ・ ファシリテーターは、第1回～第4回まで一貫してサポート。状況に応じて、補講や研修外での相談対応実施。
- ・ 受講者の分野毎に、班編成。
(今年度は、教育分野、医療・福祉分野で編成。受講者17名を6班に分けた。)

フォローアップ研修とアドバイザー派遣の仕組み



「研修と現場を丁寧につなぐ」

研修で学んだことを現場で実践するためのサポート

講師・ファシリテーターのOJTにより現場の実践者を育成

【冰山モデル】

○事例検討会で作成した冰山モデル

課題となっている行動

場に応じた声の大きさの調節が難しい

本人の特性

- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 9) 抽象的であいまいな表現が難しい
- 13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
- 20) 臨機応変に判断することが難しい
- 21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい
- 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

- 人 : 言葉と手話(身振り)で指示を出している
- 物 : 声を出しながら遊びたいものがある
- 場所 : 学習と休憩の場所が設定されているが、境界が曖昧になっている
- 状況 : 日によって、気持ちの切り替えに時間が必要なときがある
- その他 : 家庭環境の変化がある(弟が生まれた)

必要なサポート

支援のアイデア

- A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える
- F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする
- J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする

本人の強み → 活かせる場面や状況

視覚的な指示を理解する → わかりやすい指示を視覚的に提示することで、声の調整ができないか

ポケモン、マイクラ、フォートナイト(銃などの武器)が好き → トークンを使って、約束を守るモチベーションにすることができないか

好きなキャラクターや遊びをご褒美として活動に取り組む → 事前に視覚的な約束と、ご褒美を組み合わせ、ルールを理解ができないか

研修後の振り返り

●成果について

- ・分野（医療、教育、福祉など）を越えた交流の創出
- ・分野に関わらず、共通課題は「チームマネジメント」

●課題について

- ・本事業の認知度向上
- ・受講者が参加しやすい研修運営（日程、カリキュラムなど）
- ・分野（医療、教育、福祉など）を越えた連携の強化
- ・アドバイザーやファシリテーターの人材不足、育成方法の確立
- ・研修スキームの改善（例：受講者や事例数を絞り込む等）
- ・研修の成果目標見直し（例：ファシリテーターを何人増やせたか等）